懸案事項

作成者:検証委員会

懸案番号	平成30年7月25日 発言者 検証委員会			
10	締切 月 日 担当者 浄化槽委員会			
懸案事項	生涯機能保証制度において、修理に伴う基金の支払い 今後の対策			
	<基金の支払内訳>漏水・仕切板・ろ材・接触材・担体			
	H25年、26年、27年・・・平均年約670万円			
	H28年、29年・・・・・平均年約3,600万円 H27年度以降、年約5倍強の支払いとなっている。 <修理件数>			
	H25年~H29年 修理件数 単年度約1000件前後と毎年ほぼ同等である。			
調査	(内訳) (漏水件数) (漏水件数) 割合			
	H25年 メーカー無償1,087件(119件)基金支払 96件(19件) 約11:1			
	H26年 メーカー無償 954件(136件)基金支払 58件(14件) 約16:1			
	H27年 メーカー無償 772件(93件) 基金支払 88件(34件) 約 9:1			
	H28年 メーカー無償 428件(23件) 基金支払408件(123件) 約 1:1			
	H29年 メーカー無償 413件(27件) 基金支払509件(124件) 約 1:1 メーカー無償修理件数が年毎に減少し、基金支払件数が増加していることが上記で理解			
	メーカー無債修理件数が年毎に減少し、基金文払件数が増加していることが上記で表してきる。また漏水以外の修理においても同様である。			
	*現在 基金支出の大きな要因になっているのが漏水以外の修理(仕切板・ろ材・接触			
	村・担体)である。最新H29年度の割合によると約4,000万円の内、約3			
	0万円にあたり全体の75%を占めている。毎年増加傾向にある。			
	≪対策≫			
	1. 生涯機能保証制度の規約(無料)確認・見直し			
調査結果	果 ・漏水による修理 ・ブロワ故障による修理・ブロワ停止警報器の設置			
	・消毒剤の補充			
	2. メーカー保証となる瑕疵及び、リコール対象となる浄化槽の調査			
	以上 今まで判定委員会としてこれらのことを意識することなく進めてきたことが基			
	金での支払増加の原因と考えられる。			
	したがって、今後は対応を強化するため、問題意識をもてる新たな判定委員の人選			
	要とする。			

検証結果

- メーカー保証のさらなる活用
- ・漏水以外の修理(部位)が水質に及ぼす影響を考査

理事長	部会長	検証委員長
月日	月日	月日